

酒と女性に厳しいイスラム教の国

岩本友則

「9_試される語学力」においてイラクの「ナンパ罪」について紹介いたしましたが、私が滞在した当時のイスラム教の国における異文化（酒事情等）について紹介しましょう。ただし、ここで紹介できるのは、私が滞在した当時の状況であり、現在の状況と異なると思います。

1. テヘラン空港、イスラム教遵守

現在のテヘラン国際空港は、エマーム・ホメイニー空港ですが、私の訪問当時のイランの空の玄関は、メヘラーバード国際空港でした。



写真：メヘラーバード国際空港

飛行機が着陸すると飛行機がターミナルにつくまでの間に、女性達は、スカーフのようなもので顔を覆い、マントのようなものを羽織るのです。それは、女性は身体の線や肌を見せてはならないからで、国籍や宗教関係なく女性がイランで生活するためのルールです。

逆に、テヘランから出発する飛行機に乗ります。すると、女性たちは、座席に付く

なり解放されたかのようにスカーフや身体を覆っている上着を取るのです。

2. 交通事情

イランには、鉄道とわずかに地下鉄がありましたが、頼りとなる交通手段はバスとタクシーです。イランでは、長距離路線も含めバス網が整備されておりました。また、市内バスで連結車両の場合は、前が男性で後ろが女性専用と別れた専用車両となっており、車両が分けられていないものは、中で仕切られておりました。従って、家族であっても、男女であれば分かれて乗車しなければなりません。(長距離バスは、男女分かれているか否か定かではありません。)



もう一つの交通手段は、右の写真にあるタクシーです。不思議なことに、市内バスは、男女の仕切りが厳格であるにもかかわらずタクシーは、乗り合いで男女の仕切りが無いのようです。時として、痴漢も起こるのだそうです。ですから、イランでは女性一人でタクシーに乗ることは危険なのだそうです。

